

○1番(近藤 治隆君) 議席番号1番、近藤治隆でございます。

本日は2つの質問をさせていただきますので、よろしくお願いします。

今の日本では少子高齢化、そして核家族化が進んでいます。皆さまもご存じのように、共働きの家庭も増えています。

そこで私は東員町で共働きの方について、どのような政策をしていくのか、1つ目の質問でさせていただきます。

東員町も新興住宅と比べれば、まだまだ進んできていないと思いますけども、例外ではないと思います。そこで東員町のまず方向性を伺いたと思います。政策はどのように考えているのか、そしてどのような子育て環境を構築していくのかなど、東員町としての将来展望をお伺いします。

よろしくお願いいたします。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) 共働き家庭についてのご質問にお答えをさせていただきます。

人口減少期に入った日本では、少子高齢化とともに核家族化が進んでおります。近年の先行き不透明な経済状況や賃金の減少といった社会情勢の影響もありますが、女性の社会参加への意欲が高まっておりまして、共働きを選択する世帯が増加いたしております。

2012年度の男女共同参画による内閣府の世論調査では、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという考え方に反対と答えた人は45.1%で、1992年度調査から11ポイント上昇をいたしております。

こうした社会状況を踏まえ、本町におきましては、若い共働き家庭にとって、最も不安や負担感が大きい子育て環境を整え、安心して子どもを産み育てられるまちづくりに努めております。

現在子育てに関しましては、全小学校区での幼稚園・保育園の一体施設整備に加え、その料金体系や質の充実、また、学童保育所の全小学校区での整備、中学校3年修了までの子ども医療費の無料化、幼稚園5歳児保育料の無償化、発達支援室の設置、生後6カ月から就学前までのインフルエンザ予防接種費用助成、また、なかなか子宝に恵まれない夫婦を対象とした不妊治療費助成など、子育てや少子化対策への環境づくりを行っているところでございます。

今後どのような子育て環境を構築していくのかということですが、基本的には、今、本町が取り組んでいることを継続していく方向で考えています。

しかし本町の課題として、出生率が全国や三重県平均を下回っているという事実がございまして、この状況を精査・分析し、対策を講じることが、本町としては必要ではないかと考えております。

本町が行っている子育て支援をもう一度よく分析、そして検討してみて、本当に効果が上がっているのか、どこか問題はないのか、子どもを持つ若い世代にとって本当に有効なのか、かゆいところに手が届いているのか、行政主体でやっていることがいいのかどうか、こういうことも含めまして、詳細にもう一度検討をしていく必要があるというふうに思っております。

いずれにいたしましても、子どもと親とが心身とも安心して健やかに過ごすことのできる環境を整えることが行政の役目であり、これからも母子保健事業の充実、子育て家庭への支援、地域環境の整備や教育環境の整備などの充実に努めるとともに、町民へのニーズ調査なども行ってまいりたい、そして課題の解決のために努力をしてみたいと考えております。

以上でございます。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) 町長のほうから答弁をいただきました。ありがとうございます。

課題を解決していきたいというふうなことで、正直アバウトかなと思ったんですけども、どのようなことをしていくようなのか、もうちょっと答えてほしいなと思ったんですけども。

まず、共働き家庭で必要とされるのは、もう少し学童保育の自由なところが必要かなと僕は思ってます。なぜかと言うと、多分、共働きの方で先ほど男女共同参画という話もされましたけども、女性の方が働いているおうちで、子どもが熱を出したとなったら、女性の方は仕事を休まなければいけません。そういう場合に仕事を休むということは、やはり男女共同参画の観点から考えても、どうしても雇い主からしたら雇いづらい環境でもあると思っていますんですね。その辺の細かいところを支援していくのも、行政の一つの施策としていいのではないかなと考えているんですけども、その点についてどうお考えか、お答えをお願いします。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) そういった細かい配慮というのは恐らく必要なんでしょう。ただ、決められたパイがございますので、その中でより有効な手段は何かというのを考えてやっていかざるを得ない。全てを抱え込んでやっていけるということが出来るかどうかというのは、先ほど私、答弁のところで言わせていただきましたように、全部が行政で抱え込んでやるということが本当にいいのかどうか。かゆいところに手の届くような施策というのが、行政でやっていけば多分全部できないと私は思ってます。だからこれからは町民の皆さん、あるいは市民活動団体の皆さんと協働しながら、そういうことも踏まえてやっていかざるを得ないというふうに思ってますし、そういう団体の皆さんが、あるいは有志の皆さんが出てきていただけるということを私は期待をしているというふうに思っております。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) では1つお聞きしますけども、現実として家族で共働きの家庭が、例えば夏休みになりました。学童保育に行っていない子で夏休みになった場合には、学

童保育に現実として入れないんですよ、東員町の場合は。夏休みだけ学童保育に入るとかというのはできなくて、1年間学童保育に通わなければ学童保育のほうには入れません。そういう状況でパートに出ているお母さんたちは夏休みの期間、子どもたちをどうしたらいいのかと、そういう問題に直面している部分もあるんですね。そこは町長、そういう場合ってどうしたらいいと思いますか。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) ちょっと状況が申しわけないんですけど、よく把握できてないのですが、そういう子どもさんを預けて働きに出てみえる方は、普段から学童保育に預けてみえるんじゃないかなというふうに思ってるんですが、把握できてないので申しわけない。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) すみません、説明が今わかりづらかったの。例えばパートに9時から2時まで働いている方がいらっしゃると思います。その方が4時になったら学校からお子さんが帰ってくるので、迎え入れることができるんですね。なので学童保育には通わせなくていいんです。ただ、夏休みの期間に関して、冬休みの期間に関しては、その方がパートに出てる間は、お子さんは家で待たなければいけないんですね。要するに子ども一人で家庭にいるか、それが低学年の場合なんかは、もっと心配で仕方がないから、パートを一時期やめて、子どものために家にいる形をとっている方もいらっしゃいます。そういう方に対して、私は学童保育をもっと夏休みとか春休みとか冬休みも自由に出入りできるような制度をつくっていくべきだと思うんですけども、前回質問した時にも、それは公設民営で民営がやっているの、私たちは基本的には口出しができませんという答えでした。それを町長はどのように思うのかということです。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) わかりました。

ですから今、行政で全部抱え込んでやるということになりますと、夏休みだけとか冬休みだけとか、そういうことをもし加味するとするならば、今の施設ではどうてい足りません。今の面積では足りません。ですから増設するのかとか、もっと大きくするのかとか、そういうことが必要になってくると思いますし、そのために人もお願いをしていかならんということになってきます。そういう意味で、さっきから言っているように、行政が全部抱え込んでやるということになると問題が出てくるということで、今、私が言いましたように、民間の方たちと協働をしていくという方向性を考えていかないと、全部が全部そういうことに対応するということは、なかなか難しいのではないかなというふうに思っております、行政がどこまでやらんらんのかということとちゃんと線引きして、それ以上のことは民間、あるいは市民活動の方たちと協働していくということを、これから考えていかないといけないというふうに考えてます。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) 民営というか、民間のほうに委託していくのもわからなくもないんですが、すみません、今現状、困っている方がいらっしゃるんですね。別に民間に最終的に委託するのは全然問題がないとは思うんですけども、それならば今困っている方のために、一回こちらでやったらどうなんですかねと思うんですけど。

例えば学童保育に関して、全部施設が空いてないわけではないです。まだまだ入れるところもありますし、そこへ集めることもできるのではないのでしょうかね。全く満タンな状態ではないと思いますし、今回、稲部学童のほうも建てていただきましたので、まだ完成はしてませんが、そういうので、まだまだ考えられる余地はあるのかなと思うんですけども。全部を民間に移すために、町長としてはどれぐらいの期間を考えられているんですか。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) いや、まだ検討をこれからしていくところで、時期的には考えておりません。ただ、今すぐ、議員が言われたようなことをやろうとするならば、どれぐらいのニーズがあるのかとか、じゃあ私もという話になりはしないかということも含めて、まだ全然ニーズ調査もしてませんから、そういうニーズがあるのかどうかということも正直把握してません。その中で学童保育というのは、普段共働きで、いわゆる昔、鍵っ子と言われたお子さんたちを預かるという形で今やっていますので、そこを一つの基本的な人数としてやっていますので、今言われた一時的に夏休み、冬休みなんかに預かるということまで想定してやってないものですから、把握がされてません。ですから今どうのこうのということは、申しわけないですけど言えないという状況でございます。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) 町長が答弁されていることなんですけども、今まで私が課のほうに行って聞いている話とちょっと違うのかなと思うのが、現状把握してないのではなく、基本的には民営に任せているので、学童保育自体は公設民営なので、なので民営に任せているので、指導はできますけども方針は出せませんと聞いているんですね。そういうふうに伺っているんですけども、もう一度すみません、教えてください。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) 申しわけないです。今の現状からいくと、もう1つ、議員の言われたことも含まれます。要は委託している部分がありますから、そこの方たちが受け入れてくれるのか、受け入れてくれないか、そういうこともあります。それから容量もあります。今言われたことにつけ加えて、ちょっと言葉足らずでしたので、申しわけございませんでした。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) ということですので。民営化に実際はもうなってます。その上で問題が出てくるんです。だからこそ、こういうふうに質問させてもらっているんですけども。

実際に父母会というのが運営していて、父母会が委託したというか、先生を頼んで今現状で見てもらっている形です。父母会というのが、実際に働いている方が夜出てきて運営

している状況なんですね。それを先生たちに、もっと例えば夏休みを増やしたいと言っても、今は先生がいないんですと言われるんですよ。先生を雇うのに、実際にあった話で、稲部学童のことに言えるならば、ほかの学童よりも金額が高かったんですね。それは僕が質問して、どういうことですかというふうな話を聞いたら、先生が見つからないので時給を上げなければ見つからないのですと、父母会にそうやって言われたんですね。それを稲部学童のほうでは父母会は真に受けて、そのまま上げてたんです。ところが事実上、下げたところで先生は実際には来てましたし、現状としては、東員の学童とかとほぼ一緒の金額になってるんですけども、実際運営は成り立っているんですね。そういうようなことがあって、民営に任せて全てがうまくいくのかというのは、ちょっとハテナマークが僕の中であるんです。

確かに公設というのは必要になるのかもしれないですけど、公営がいいとも言い切れませんが、現状としては、やはり形をつくるまでは公営であるべきだと僕は考えてます。その後、形をつくった後に民営化するのであれば、まだ学童というのは生きてくると思うんですけども、民営をいきなりしてしまうのはどうかと思っておりますが、もう一度、町長のお考えをお願いします。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) ちょっと私も説明不足で申しわけありません。今、公設民営といっても、結構行政がやっているのに近いのかなという、僕のとらえ方なんですよ、今の現状は。

私が民間との協働ということを行っているのは、例えば四日市市で子どもスペースだとか、子どもクラブだとか、あるいは名張市で行われている子育て支援の民間の人たちの活動だとか、非常に民間の人たちが子育て支援ということにまともを当ててやっておられる、そういう形を私は市民との協働、あるいは民間との協働ということを申し上げておまして、今の東員町の形が民間との協働ということとは、ちょっと違うような気がしておまして、今はどっちか言うと委託しているという形だと思っております。ですから本当に民間の、あるいは市民活動の方たちとの協働という形でやっていければというふうに思っておりますが、そういう方たちがみえないことにはどうしょうもないなというふうに思っておりますので、いろいろご相談をさせていただきながら、できるだけ早く、そんな協働のできるような形をつくっていければなというふうに思っております。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) 協働ということで、民間の方と民間運営とか、協働でやっていけるのは一番確かにいいんですけども、実際問題、今の私たちの世代、いわゆる30代、40代という世代はそういうのに参加しません。そこからニーズを拾うことはできないと思います。実際に自治会でもなかなか参加していないのが事実です。それは共働きをしている上で忙しいとか、今は特に工場に働いている方がいらっしゃるの、先ほども話があったように、夜働いている方や、いろいろ今までの日本社会とは違うところがあって、どうしても

出れないところもありますし、そういうものに興味がないからと、いろいろな意味で生活が豊かになった分、ニーズが多様化していて、そしてそういう考え方になっているのかもしれませんが、なかなかその辺では子育て世代の家庭の状況はわかりにくいのかなと思っています。

学童保育のことをずっと言っても仕方がないので、今回は共働きのことですので、まず町長が答弁者になってましたので、いろいろ聞きたいことがあるんですけども、東員町の子育てとして、どういう特色を出していこうと思っていらっしゃるか、お聞かせ願えますか。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) それにつきましては、先ほど答弁でも申し上げましたように、今やっていることが我々としては先進的に、かなりほかのところが出てないことまで踏み込んでやっているものというふうに思っておりまして、こういうことを継続していきたいと。そういう中でも、今やっていることをもう一度振り返って、本当にいいのかどうかということを検証したいということをお願いしたのであって、今やっていることを基本的には継続していきたいというふうに思っています。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) その答弁はいただいてまして、町長には、どこが一番強い思いがあるのかなというのを聞きたかったですけども、今のまま継続したことによってどうい結果が得られるのかというのが、はっきり正直わからないんですね。その点が、今やっていることをすれば、子育て世代の方が東員町に移り住むのか、それとも子育て世代の方が満足するのか、どういう効果が得られると思って今後継続していこうと思っているんでしょうか。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) まずは子どもが健全に育つと。3歳ぐらいまでは本当に親がかかわって、基本的な信頼感や自分に自信を持つということですね、そういうことも含めて健全な子どもたちが育ってほしいというふうに、これが一番大きなことであります。そして2次的には、そういう子育てに対して一生懸命取り組んでいるよということで、外から若い人たちが、子育てするなら東員町ということで入ってきていただければ大変ありがたいなというふうに思っております。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) 私も同意いたします。健全に育って、外から入ってきていただけるのが一番ありがたいと思うんですね。

実際に東員町というのは、外へ出て行っている若者のほうが多いと思っていて、どんどん減少しているのはそのせいもあると思うんです。

ただ、私が今回、東京のほうへ行ってきて、ある幼稚園の園長先生と話をしてきました。東京のほうの幼稚園の先生が一番最初に言った言葉が、東京の親には任せられやんと

言ったんですよ。なぜか。それはやはり仕事がまず第一で、共働きをしていることによって双方とも8時ぐらいに帰ってくる。朝早く出て行って8時に帰ってきて、子どもを見る時間はないと。だから幼稚園に預けるんだと。僕はそういう状況は余りつくりたくない。

子育ての状況として、例えばアメリカとか先進的なところだと、基本的には残業が少ないから成り立っているんだと思うんですね。ただ、日本の場合は残業が多く、そして土日も出勤をしたりする会社も多々あります。その中で行政が手をかさずに本当にうまくいくのかなというのが、僕の中で疑問に思っている一番の問題点です。

健全な子どもが育つ。それは確かにそのとおりでしょう。ただ、どうしたらそういうふうになると思っているのかをお聞きします。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) これは大きな問題だと思っておりますけども、日本は今、私は働き方を真剣に議論するべきだというふうに思っています。パートというか、非正規雇用が増えて格差が広がって、こんな社会で子どもを育てていくお父さん、お母さんというのは大変だというふうに思っています。本当に世界をずっと見て、例えばオランダだったらパートでも、パートの働き方というのは社会で認めているじゃないですか。ちゃんと社会保険があって、そして子どもにとって必ずお父さんかお母さんはいらんだということを保障しているじゃないですか。例えばそういう働き方だってあるわけですよ。それがいいとは言いませんよ。いいのか悪いのかは、もっと議論すべきですよ。しかし今、日本ではそういうことは全く考えられてない。どんどん格差が広がっていく。非正規雇用が多くなっていく。こんなことで本当に健全に子どもが育っていくのか、非常に私は疑問を感じています。

子どものために、子どもというのは将来の日本を背負う、そういう人材ですよ。それを育てないで、今さえよければということでは、私はだめだというふうに思っていますので、これは国策ですよ。国がどういうふうに働き方を決めていくのかということは、よく私は議論してもらいたいというふうに思っています。小さな我々みたいな町で議論することではないというふうに思っています。ぜひ私は希望を込めて、国に訴えていきたいなというふうに思います。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) 町長が言われたとおり、国で考えることだと思うんです。ただし、東員町でも特色は出せると思うんですよ。だからその部分を今ずっと聞いているんですね。東員町でできること、例えば先ほどの学童保育のことに関しても、東員町ではできません。そういうことでお母さんたちを助ける、そういうようなことを一般質問のこの場で聞かせてもらっているんですけども、町長はこれから続けていくと言われているので、どういうふうに健全な子どもたちの育成というか、なし遂げていくのか、国がやらなければいけないんですけども、町としてできることはないのか、その辺、お考えがあれば教えてください。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) ですから何度も申し上げてますけど、今、東員町でやっていること、子育て支援、あるいは教育、これについては今できる限りのことをやっている。限りある財政の中で、決められたパイの中で、できる限りのことをやっているというふうに思っておりますし、これはもう少し何かあるんじゃないかということを考えながら、少しでもいい方向へ行きたいというふうに思っています。

ただ、今、東員町はかなり私は健全な子どもが育っているのではないかなというふうに思っております。この間、青少年の主張を聞かせていただきました。すばらしい発表をしていただいた。あんな子どもたちがこの東員町で育っているということは、私は誇りに思っているのではないかなというふうに思っております。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) 僕も最初に言ったように、新興住宅街よりも東員町のほうはまだまだ進んでないと思っているんですね、そういう考え方自体が。まだまだモンスターペアレントとか、そういうのも少ないと思いますし、東京に比べたら子育ての環境としてはいいと思っております。

ただし、今後、東員町を先ほども言ったように外から人が入ってきてほしいなという考えの中で、例えばミニ開発をしたりとか、新しい方の考え方が入ってくるということは、間違いなくそっちの方向に進んでいく可能性があるんですね。だからこそ、今、議論すべきだと僕は思っているんです。現状をそのまましてたんでは、新しい方が入ってきたときには、新しい環境ができ上がり、今の東員町が徐々に子育ての環境として悪くなっていくのではないかなと思うから、こういう話をしてるんですけども。

実際に学童のこともそうですけども、例えば学校の話でもそうだと思っていて、子どもというのは十人十色ですし、画一化された学校のシステムというのを僕はちょっと懸念します。小学校、中学校というのは、数的に考えても私立化するのは難しいとは思ってますけども、幼稚園とか保育園、今は同一でやっていますけども、そこを私立化するというのも一つの案なのかなと。

これはもう全部に言えることで、障がい者支援に関しても、1カ所に集中するのではなく、2カ所、3カ所という、競争とまでは言わないですけども、障がい者の方が頼れるところがほかにもあるという状況が必要だと思いますし、そのほかにも結局、障がい者に関しても、学校に関しても、トップが一緒だと、同じ方向にしか行かないと僕は思っているんですよ。競争社会の中で経済学とか考えていると、どうしてもトップが一緒のところは衰退していく傾向にあります。それはもう結果的に出ていることで、競争をしていくことで、よりいいものができ上がっていくのは確かなので、東員町というのは学校に関しても、障がい者の支援に関しても、まだまだ1カ所というか、1つの頭で動いている部分があるので、ぜひともその辺も変えていっていただきたいなと思っているんです。

そこで1つだけ町長にお伺いするんですけども、例えば幼稚園の私立化とか、そういうことは今までに考えをお持ちになったことはあるのか。それとも障がい者施設に関しても、



今1カ所、1つの頭でやっているところを2カ所に増やすとか、ほかの考え方とかというのは考えられたことがあるのか、お伺いします。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) まず幼稚園・保育園の話ですけど、民間の方が東員町で開設されるということにつきましては、反対した覚えは一度もございませんし、そういう事例がないということです。これは行政がどこかへ行って東員町でやってくれと言っていくような問題ではないというふうに思っております。

それからもう1つ、障がい者の施設にしても、これは民間の皆さんが、町民の皆さんが必要だということでやってみえます。その中で、ほかの施設で、ほかのことをやりたいということが出てくれば、それを拒否するものでもございません。これはあくまでも行政が主導するものではないというふうに思っております。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) すみません。話がちょっとズレていっているので申しわけないです。戻します。

共働き家庭に関しては、もう一回、アンケート調査とかを行っていただいて、一応何かアンケートは行ったようですが、実際に東員町の色を入れたアンケートは行っていないようですので、もうちょっとニーズなどを調べてほしいなと思います。その上で今後の対策とかを考えていただければいいのかなと思っています。

それでは2つ目の質問に入らせていただきます。

内容はほぼ一緒になってくるんですけども、今回、中心は子育ての支援の充実について伺います。

今の日本では生活が豊かになって生活スタイルが多様化しています。本町としても子育ての世代の生活スタイルに合わせた政策などをしていく必要があると思うんですね。先ほども言っているように、基本的にニーズの調査というのはされてないようなので、現状で本町がどういうニーズを把握しているのか、子育て世代からくみ上げたニーズというのはどういうものがあるのか、お聞かせいただけますでしょうか。

○議長(木村 宗朝君) 水谷生活福祉部長。

○生活福祉部長(水谷 真人君) 近藤議員の子育て支援の充実についてのご質問にお答えをいたします。

東員町子ども子育て支援事業計画の策定の前段階として、昨年10月に就学前児童と小学校児童に分けて、保護者の方を対象にニーズ調査を実施いたしました。

この中で国が必須とするもの以外の項目といたしましては、「仕事と子育てを両立する上で大変だと感じること」「子育てに対する不安感や負担感はありますか」「子育てにおいて楽しさの度合い」などを項目に入れております。

ニーズ調査結果といたしまして、「仕事と子育てを両立する上で大変だと感じる事」では、子どもと接する時間が少ないこと、子どもが寂しがることが、父親37.3%、母親55.7%との結果が出ております。

「子育てに対する不安感や負担感」では、余り感じないが35.4%、何となく感じるが35.9%ありました。不安感や負担感を感じられている保護者に対しまして、子育て過程において安心感が得られるよう、母子保健事業や子ども・子育て支援事業計画に基づく、なかよし広場、ちびっこパーク、おでかけ広場など、さまざまな事業を展開しております。

また「子育ての楽しさ」では、楽しいが74.3%、楽しくないは0.6%でした。

保護者からの今後のニーズといたしましては、土曜日の定期的な教育・保育事業の利用希望として、月に1~2回利用したいが15.1%、ほぼ毎週利用したいは6.8%でした。

土曜日保育事業につきましては、現在拠点園方式として、東員保育園の一カ所で、平日と同じ通常保育を実施いたしており、今後も継続していく予定でございます。

幼稚園につきましては、現在土曜日の実施は考えておりません。また、幼稚園を利用されている方で、夏休みなど、長期休業期間中の教育・保育事業の利用につきましては、期間中ほぼ毎日利用したいが8.4%、休みの期間中、週に数日利用したいが16.7%でした。

今後はこのようなニーズ調査の結果等も参考にしながら、東員町でどのような事業が必要かつ可能なのかを検討してまいりたいと考えております。

時代とともに子育て家庭のライフスタイルにも変化が生じてきている以上、ニーズに沿ったよりよい支援ができるよう、その充実に向けて検討してまいりますので、ご理解賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) ご答弁ありがとうございます。

ニーズ調査をされているということなんですけども、実際、ニーズ調査をしていたことは知ってまして、ただ、これは国のほうから来ているニーズ調査だと思って、その中で東員町がつけ加えた質問というのはどういうものがあるのか、お聞かせいただけますか。

○議長(木村 宗朝君) 水谷生活福祉部長。

○生活福祉部長(水谷 真人君) お答えをさせていただきます。

基本的には議員おっしゃるように、設問の内容は調査指示に沿った形です。ただ、この意見を集約した上では、策定委員会のほうで、そういうことをもとに委員からの意見はちょうだいしております。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) 国の政策の部分、町長も言われたように大きいと思うので、確かに国のとおりだと思っんですけども、東員町としても、特色を出していくためにも、東員

町としてどういうニーズがあるのか、そういうところも含めて、もっと調査をしていただきたいなと思います。

特に子育て世代というのは、徐々に行政に対して興味を持ってきていますけども、なかなか回覧板であるとか、東員の広報とか、全部が全部、見ているとは限らないので、逆にそこは子どもたちを使ってニーズ調査なんかをしたらいいかんと思ってます。学校のほうに例えば親が困っていることはどうですかというのを、子どもに渡して、そこから親に行くような形とか、そういうこともぜひとも考えていただきたいと思いますけども、それに対してご答弁をお願いします。

○議長(木村 宗朝君) 水谷生活福祉部長。

○生活福祉部長(水谷 真人君) お答えをいたします。

子育て支援の中で、先ほどもありました赤ちゃん相談とか、いろんな健診等もございますので、現場のほうには担当の保育士も出向いておりますので、そのあたりでお子さん連れでお見えになりますので、お母さんの意見やら、子育て中に困ったことなど、さらにその辺を充実していきたいと思っておりますし、議員がおっしゃるように、ある程度機会ごとに、そういうふうな状況をキャッチしてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) ぜひともお願いいたします。

実は子育てに関しなくても、30代・40代のなかなか広報を読んでもらえない方というのは、逆に学校のほうとかお願いして、例えば防災のことにしても、子どもたちにタンスが倒れないように設置したかというのをチェックを渡して、子どもにしてもらおうとかと、そういうふうな方法もありますので、なかなか回答が得られないんですよではなくて、いろいろなことを試行錯誤しながら、その辺のニーズもぜひとも受け取っていただきたいと思っております。

今回いろいろ質問してきたんですけども、私が思っていることは、東員町に若い人たちを取り込むためにはどうしたらいいのかを考えたときに、東員町としての特色をもっと外へアピールしていくべきだと思います。名古屋の経済圏でありながら、田舎の町並みを残しているまちなので、逆にそれを生かした政策を立案して議論していくのがいいのかなと思ってます。

先ほども言いましたけども、東京の方法が国のほうには反映されますけども、地方のほうはなかなかできません。だからこそ、地方のほうで考えなければいけないと思うんですよ。

高学歴の子どもを育てるのも、確かに重要だと思いますし、それはそれで親にとっては魅力的なことだとは思ってます。でも実際に社会に出た時に、高学歴の方が本当に社会に適應しているのかというのは、ハテナマークだと思うんですよ。確かに就職する時点では、高学歴な方というのは得をします。例えばいいところに就職してお金を稼ぐという意味でも、お金を持っている方は人生にとって有利ではあると思うんですけども、実際にそ

れが幸せにつながっているのかというのは、ちょっと最近の中では疑問に思っている部分がありまして、私たちの世代というのは、特に親父らの世代とかが高度経済成長期の真ただただ中で、大学を出たらいいところに就職できて、お金が稼げるような感覚を受け継いでいて、そういうのが本当にいいのか悪いのかというのを考えさせられた世代でもあるので、もっとどうしたらいいのかというのを、もう一段階落として、私たちの世代にもっと聞けるような体制をつくってほしいと思います。

そのためには、東員町で僕は画一化したシステムは要らないと思っていて、逆にオンリーワンのシステムをつくっていくべきだと思ってます。政策に対してもキーワードが必要になりますし、多様化の進む現代社会ですけども、全ての人に平均的な政策を持っていても、なかなか人は入ってこないと思うんです。だからこそ、私たちの世代に向けた一つのオンリーワンの部分をつくっていただきたいというのが僕の気持ちです。

今の世の中、政治家は投票に必ず行ってくださる年輩の方とか、福祉のこととかに目を向けがちですけども、将来、20年、30年先のことを考えたら、福祉を充実させるためにも、具体的に東員町に生産者人口を増やしていくことが一番重要とは言わないですけど、必要なことだと考えています。

行政が充実した福祉をするために、先立つものがなくては、やはり立ち行かないと思うんですよね。短期的に考えれば今は大丈夫だと思いますよ、5年とかそれぐらいは。ただ、10年、20年先のことを考えたら、今、種をまかないとだめだと思うんです。

いろんな意味で例えばアベノミクスとか、いろんな意見があります。それに関して、僕はあれは種をまいているんだと思うんです。今すぐ芽が出るものではないんです。種をまく必要があるからアベノミクスを打ち立て、メディアでもいろいろ批判もされてますけど、まだ4年です、もうちょっと短いかな。実際に芽が出るとかは、もっともっと先だと思うんですよ。

ここ、子育て世代に関して、僕は東員町で今、種をまかなければいけない時かと思うんです。種をまかないと結局衰退していくばかりで、もっと特色のある政策を出してほしいなと思いますし、これからもどんどん僕は提案していきます。今のところ何か提案しても全部蹴られてますので。ぜひとも、もっとはっきりと、30代・40代の人が入ってきて得をすと言ったら失礼かもしれないですけど、入りたいなと、東員町をいわゆるブランド化みたいな形で、リスクも確かにあるんですけども、出していきたいなと思っています。

時間も迫ってきましたので、今回の質問は、ぜひとも東員町、前へ進めるためにも福祉を充実させるためにも、まず第一手は子育ての世代を取り入れることや僕は思ってますので、町長、手を上げられてましたので、何かあるのでしたらどうぞ。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) 全くそのとおりだと思ってます。今、答弁の中で申し上げましたように、東員町の出生率というのは全国平均や三重県平均より、ずっとうんと下なんです。下なんだけど、今、子どもたちの数は増えてるんですよ。なぜ増えているのか。これは社会増なんです。ですから今、現実問題、我々の政策がいいのか悪いのかわかりま

せんけども、私は評価いただいて、入ってきていただいていると。そのために子どもたちの数が増えているというふうに思ってます。

そういうことで、東員町として特色のある政策を継続していきたい、そして先ほども言いましたように、それでもいいのか悪いのかは、常に見ながら進めていきたいというふうに思ってますので、ぜひともご理解をいただきたいというふうに思っております。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) 政策としては正直あんまりわからないですよ、僕は。確かに数値としては、子どもが増えているのは事実ですし、ただ、町長が掲げる政策で「子育て」というのは余り感じないのですわ。もっと前に出してほしいなと思います。本当に子育てに関しては、僕は多分この中で一番若いのかな、その世代ですので、子どもも5歳、3歳、1歳のど真ん中ですので、いろんな方の声が聞こえますので、ぜひとも東員町にも、できないことはできないと言います、でもできることはやっていきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

これで私の一般質問を終わらせていただきます。